

事業主体	北九州市（担当課 建設局河川部河川整備課）
事業実施場所 及び規模	<p>■北九州市若松区（甚五井川合流点～浅川橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延 長 L=4,350m</li> <li>・流域面積 A=25.8k㎡</li> </ul>
工事期間	平成7年度 ～
環境配慮の 背景・目的	江川は、八幡西区と若松区の区境を流れ、東は洞海湾に注ぎ、西は一級河川遠賀川に合流する、全川区間で潮位の影響を受ける感潮河川である。近年、住宅地開発や学術・研究都市の開発が進められ、「洪水を防ぎ、地域に親しまれ、潤いのある川にする」改修工事を進めている。また、環境調査により貴重な生物環境が形成されていることが確認され、現況河道のもつ貴重な干潟環境を極力活かせるように整備を進めている。

### 環境配慮の内容

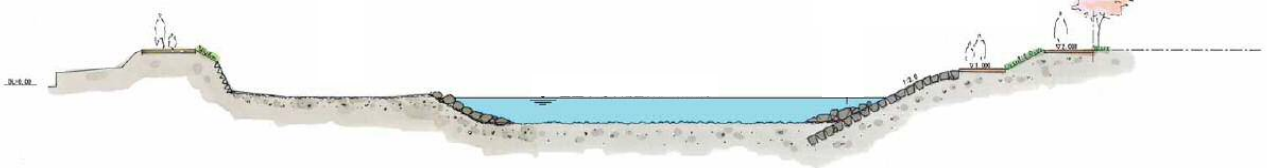
#### ●整備内容

- ・緩傾斜面による護岸整備 右岸側を1：2を中心とした緩傾斜護岸にすることにより水辺をより近くに感じることができる。
- ・多孔質護岸（法覆工） 生物にやさしい構造とするため、護岸には多孔質護岸を設置する。
- ・高水敷、管理道整備 江川全川を行き来出来るよう、散策路を整備する。
- ・干潟整備 左岸側を現況と同じ1：5の前出し護岸にて整備し、現況河道を残し現存する干潟環境を保全する。

#### ●整備イメージ

貴重な干潟を保全

広がりのある水辺空間と散策路



散策路整備状況→



←護岸整備状況



(つづき)

## ●干潟整備前後の状況



←整備前（平成 17 年）

干潟環境はあるが両岸ともコンクリート護岸。



（平成 26 年）整備後→

整備に必要な断面を確保し、現況の干潟環境を残しつつ、両岸を多孔質護岸にすることで、更なる生物多様性に期待できる。

## ●江川に生息する重要な種

- 河口域や海岸に生息する植物 ハマボウ（福岡県：VU）、ハマサジ（環境省、福岡県：VU）、ハマオモト（福岡県：EN）
- 干潟に生息する動物 ハクセンシオマネキ（環境省：VU）、トビハゼ（福岡県：EN）
- ヨシ原等の湿地に生息する動物 クレイロカワザンショウガイ（福岡県：NT）、ベンケイガニ（福岡県：NT）
- 開放水面で採餌する魚食性鳥類 カムリカイツブリ（福岡県：VU）、ミサゴ（福岡県：NT）

環境省：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）」

福岡県：「福岡県の希少野生生物（福岡県レッドデータブック 2001）」

EN：絶滅危惧ⅠB類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）

VU：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧種（将来的に絶滅する危険性がある種）



干潟には、ハクセンシオマネキ、トビハゼといった、希少野生生物が生息している。